

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年3月3日

事業所名 ジュニアスペース・らいぶ守山

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		不穏児童がいる日は人員を強化している。	十分なスペースを確保できている。不穏時の個別スペースがあれば、もっと過ごしやすい。
	2	職員の配置数は適切である	3	3	問題行動が多い曜日は職員の配置を多く配慮している。	支援時間は満たしているが、送迎に出る時間帯に人員不足を感じる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		トイレはバリアフリーは勿論、広さも車いすが動けるぐらいの広さを確保している。	玄関からフロアまでバリアフリーにしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	5	1	伝達事項について、連絡ツール(ノート等)を設けて、業務改善に繋がっている。	常勤、非常勤との出勤時間が異なるため、情報の共有する時間が設けにくい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		ご意見の多い箇所から取り組むようにしている。	極力、できる事に関して前向きに対処している。今後もご意見に関して耳を傾け尽力していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		LINEでも報告している。	一年に一度必ずホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	外部との連携は強化している。	連携は持っているが、評価に繋げるまでに至っていない。今後、評価に繋げていき、より良い支援に繋げていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		職員全員が受けてなくてもフィードバック行えるように取り組んでいる。	年4回、講師を招いて職員の資質の向上に繋がっている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		計画を読んで、わからない時は、常に質疑応答し、回答している。	年2回以上の面談の実施を行い、保護者からのお話、児童の日頃の様子について共有し、的確に判断し、計画の作成を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		5領域に関する内容を取り組み、わかりやすいツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	職員間で常に情報を共有し立案を行っている。	非常勤の方と、話し合う時間が上手く設けられない点が課題であるが、連絡ツールを工夫して取り組んでいく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	年間プログラム作成し、同じ物にならないように考えている。	個別のプログラムも柔軟に対応していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	平日はプログラムに沿った支援に取り組んでいる。	土曜日、長期休暇については、時間が長いので、児童が楽しみながら取り組めるものを柔軟に取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		保護者のニーズや児童の特性を理解して的確に組み合わせ作成している。	高学年になると下校時間が遅いため個別プログラムができて集団が難しい。休日の支援などでしっかり向き合っ計画を立てていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	4	職員間で情報の共有を図り確認し合っている。	非常勤の方と、話し合う時間が上手く設けられない点が課題であるが、出来る限り時間を使って話し合う場を設けている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	その日の児童の様子、特に問題行動があれば話し合い、次の来所時の対策を講じている。	非常勤の方が早く帰り、その日での話が出来なくても、連絡ツールを使って次に繋げている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	毎日、児童の様子について個別に記載し、情報共有している。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	半年に至ってなくても児童の成長と共に、その都度、計画の見直しを必要と考え、保護者への連絡を行い、見直している。	保護者、学校、関係機関と随時情報の共有を行い見直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6		基本的役割については、活動を取り組む中で意識している。	支援に関して5領域の視点を踏まえてアセスメントを行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児童発達支援管理責任者が参加している。	ケース会議など、必要に応じて参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	保護者を通じて情報の共有を行い、必要に応じて学校、関係機関と連携を図っている。	送迎時に話す時間が短い、上手く連携が強化できるようにしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4	アレルギー対策が必要な児童や、支援に工夫を要する児童へは万全に取り組んでいる。	現在、医療的ケアが必要な児童がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4		児童発達支援事業所等との間で情報共有と総合理解に努めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしている	1	4		今後卒業される児童が移行する場合、保護者からの承認があれば情報の提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	研修の機会がある時は常に出席させていただいている。	連携を強化し、話し合える機会が増えるようになっていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	コロナ後、中々参加できていない。	定期的に良好な関係が築けるよう開催していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1	定例会議にできる限り、毎回参加している。	コロナ禍の時はZOOMでの参加でしたが、今は、対面で会議に参加できている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時にできる限り話す機会を設け、情報の共有を図っている。	話す機会のない方でも、児童の情報提供がある場合は個別に連絡を取り、情報の共有を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	不適切な行動があれば、必要に応じて関係機関との連携を図りながら、保護者との話す機会を設ける。	互いに情報共有し、連携を強化していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時説明行い、事業所でも常に情報の掲示をしている。	分からない時があれば、いつでも話す機会を設けている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者から連絡がある際は、その都度、随時相談受けている。	保護者同士の話せる場があればもっといいと考えている。今後検討していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	保護者参観は実施している。	今後保護者がもっと交流が持てる機会が設けられるように検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		苦情があった際は、随時対策を講じている。	ホームページにもお問い合わせ窓口等も設けている。頂いた内容に対しては対策を講じていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	個別に、利用児童の情報を保護者へ共有している。	行事予定、プログラムの配信はLINEやお手紙などで随時毎月更新し連絡している。

	35	個人情報に十分注意している	6		鍵付きのロッカーで保管し、データの持ち運びはしていない。	民間の警備サービスも行い、室内室外カメラも(車にも)取りつけている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		運動や活動への参加の様子について、その日に、わかりやすいように細かく説明している。	分かりやすく、画像を見てもらう時もある。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			前は秋祭りなど地域の方や利用者家族に来所頂いていたが、コロナ禍から行っていない。また、検討していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	策定し、職員間では共有している。	保護者への共有ができていない。常に見れるよう配慮していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		職員は年に2回以上、児童へは年に2回以上1週間、全員の児童と一緒にしている。	火事、災害、心肺蘇生法など行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		毎年、年2回以上行っている。	参加できない方には、その人に合わせて個別に受講できる日を設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		基本、らいぶでは身体拘束は行っていない。	しかし、やむを得ない場合は法令を遵守し、適切な対応での取り組みをおこなう。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	保護者から連絡がある際は、その都度、随時相談受け適切な対応している。	現在、意思の指示書は貰っていない。軽いアレルギーの児童への対応について保護者からの指示で支援行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット報告書作成し、職員間で情報の共有を図っている。	ヒヤリハット報告書を注視し、事故に繋がらない支援に今後も取り組んでいく。